

やけど

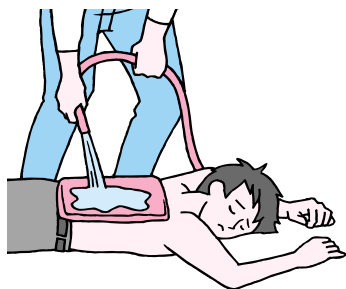
- ・皮膚の赤み「Ⅰ度熱傷」
➔部分的なら家庭の手当でも可
- ・水ぶくれ「Ⅱ度熱傷」・皮膚の白みや黒み「Ⅲ度熱傷」
➔やけどの跡が残ったり、皮膚移植が必要な場合も
応急手当後に医療機関へ。広範囲なら至急119番と
応急手当を



- ① どんなやけども真っ先に患部を流水で冷やす。

流水の刺激が強いとき

直接水圧がかからないように洗面器などに水道水と少量の水を入れて患部をつける。



顔や胴の小やけど

流水や洗面器が使いつらいときは、患部にタオルをあて、その上からやかんやホースで水を注ぐ。

広範囲のやけど

浴槽に水をためて衣服を着たまま体をつける。



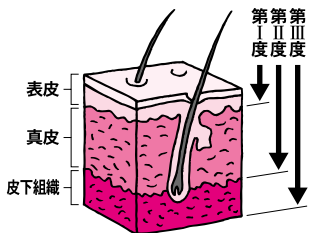
薬品によるやけど

薬液が染みた衣服を脱がし、流水を直接患部にかけて薬液を洗い流す。

注意

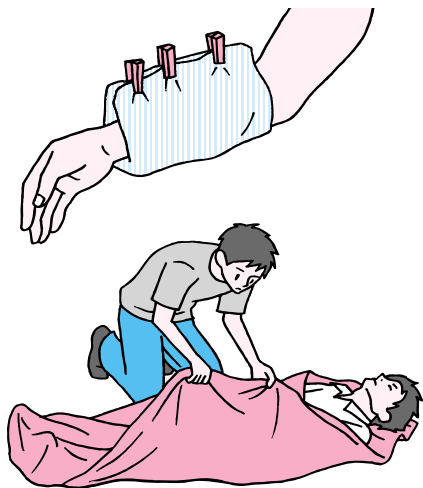
*薬品以外のやけどでは、あまり強い流水を直接患部にあてないこと。水圧による痛みの増幅や患部悪化の原因になります。
また、出火などで衣服の上からやけどを負った場合、皮膚と衣服が癒着して無理に脱がせると皮膚が剥離することがあるため、衣服を着せたまま冷やす手当をします。

*民間療法でやけどに効くといわれるネギ、ジャガイモ、みそなどの患部貼りつけは、根拠がないばかりか感染の原因にもなり、治癒を長引かせてしまうので絶対にやめましょう。



やけどの深達度の判断

深達度	皮膚の外見	症状
Ⅰ度熱傷(表皮やけど)	赤み	ひりひり痛む
Ⅱ度熱傷(真皮やけど)	水ぶくれ、発赤湿潤	強く焼けるような痛み
Ⅲ度熱傷(全層やけど)	蒼白、炭化による黒み	あまり痛まない



- ② 冷やす時間は20～30分、ずきずきする痛み（疼痛）がやわらぐのを目安に。
ただし、広範囲のやけどの場合、全身を冷却し続けると体温をひどく下げる可能性があるため、10分以上の冷却は避けること。
- ③ 十分に冷やしたら、手足はガーゼなどでふわっと包む。
広範囲のやけどはシーツで全身を覆うようにして患部を保護。
- ④ 水ぶくれができて、破らないように。

重症度の分類

重症	<ul style="list-style-type: none"> *成人で体表25%以上、幼少児・高齢者で20%以上のⅡ度熱傷 *体表10%以上のⅢ度熱傷 *眼・耳・会陰部などを含む熱傷 *気道熱傷・電撃傷 *骨折・外傷を伴う熱傷 など
中等症	<ul style="list-style-type: none"> *成人で体表15～25%、幼少児・高齢者で10～20%のⅡ度熱傷 *体表2～10%のⅢ度熱傷（眼・耳・会陰部などを含まない）
軽度	<ul style="list-style-type: none"> *成人で体表15%以下、幼少児・高齢者で10%以下のⅡ度熱傷 *体表2%以下のⅢ度熱傷



*中等症～重症は生命にかかわることも多く、とくに重症は最初の48～72時間が最も危険。医療機関に至急搬送しての全身管理（点滴・酸素吸入・鎮痛・感染防止処置など）が必要です。